

令和 4 年度

第 2 次春日井市民病院中期経営計画事業報告書

春日井市民病院

## 目 次

第 1 節	事業概要	1
第 2 節	数値目標	2
第 3 節	収支計画	6
第 4 節	具体的取組の状況	10
第 5 節	令和 4 年度各所属の主な取組項目の実施状況	21
第 6 節	中期経営計画体系別実施結果一覧	24

## 第1節 事業概要

春日井市民病院は、健全な経営と医療の質の確保について様々な取り組みを実施していくため、平成21年3月に中期経営計画（公立病院改革プラン）を、平成27年3月に第2次中期経営計画を策定し、平成29年3月及び令和3年3月に改定・延長しました。その後、令和5年3月に令和5年から令和9年度までを計画期間とする第3次中期経営計画を策定しました。

令和4年度は、地域の基幹病院、また、第二種感染症指定医療機関として、次の取り組みを進め、新型コロナウイルス感染症への対応と医療の質の向上を図りました。

事業面においては、新型コロナウイルス感染症の重点医療機関として、通常の診療を維持しつつ、新型コロナウイルス感染症患者受入れのための病床を確保するなど、医療提供体制の維持に努めました。

また、臨床検査技術室において、検査業務の継続的な改善と検査結果の精確さの向上を図り、国際規格 ISO15189の認定を12月に取得しました。

施設設備面においては、新棟の増築工事が完了し、6月から「第2診療棟」として診療を開始しました。第2診療棟は、尾張地区では初となる小児アレルギーセンター、ハイブリッド手術室、既存棟から移転・拡張した内視鏡センターを備え、より安全で高度な医療の提供に資する施設になりました。

また、白内障手術装置などの医療機器を購入したほか、事前登録したクレジットカードによる医療費後払い機能や診療呼出機能などを有するスマートフォンアプリを導入したり、採血室を拡張することにより、待ち時間の短縮や混雑の緩和を図り、患者満足度の向上に努めました。

経営面においては、医業収益は患者数の増加などにより前年度から増加したものの、光熱費の高騰などにより医業費用の増加が上回り、医業収支の赤字は拡大しましたが、医業外収益において、感染症対応のために確保した病床に対する空床や休床による損失を補償する補助金収入により、前年度に引き続き経常収支では黒字となり、純利益は965,945千円を計上しました。

業務実績においては、一般病床の入院延患者数は159,296人で一般病床利用率は79.1%（対数値目標比-7.9ポイント）、入院患者一人1日当たりの診療収入は69,754円（対数値目標比+4,854円）となりました。また、外来延患者数320,711人で外来患者一人1日当たりの診療収入は16,669円（対数値目標比+1,469円）となりました。

収益的収支においては、医業収益は17,632,757千円（対収支計画比+10,806千円）で、対前年度比749,110千円増加しました。一方、医業費用は18,520,238千円（対収支計画比+1,135,433千円）で、対前年度比1,146,263千円増加し、医業収支比率は95.2%となり対前年度比で2.0ポイント減少しました。なお、給与費は9,740,533千円（対収支計画比+573,509千円）で、職員給与費対医業収益比率は55.2%（対数値目標比+3.2ポイント）、材料費は4,125,289千円（対収支計画比+386,289千円）で、材料費対医業収益比率は23.4%（対数値目標比+2.2ポイント）となりました。

また、経常収益は20,455,351千円（対収支計画比+2,045,056千円）、経常費用は19,489,406千円（対収支計画比+1,188,401千円）で、経常収支比率は105.0%（対数値目標比+4.4ポイント）となりました。

## 第2節 数値目標

### (1) 計画

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
経常収支比率 (経常収益/経常費用×100) (%)	101.1	103.0	101.4
医業収支比率 (医業収益/医業費用×100) (%)	—	103.7	102.0
職員給与費対医業収益比率 (給与費/医業収益×100) (%)	52.4	51.6	52.2
材料費対医業収益比率 (材料費/医業収益×100) (%)	19.4	20.4	20.8
委託費対医業収益比率 (委託料/医業収益×100) (%)	11.9	11.1	11.1
一般病床利用率 (%)	84.0	84.0	85.0
延入院患者数 (一般) (人)	170,937	170,470	171,260
1日当たり外来患者数 (人)	1,300	1,355	1,360
入院患者一人1日 当たり診療収入 (円)	54,865	58,200	58,600
外来患者一人1日 当たり診療収入 (円)	12,800	13,140	13,300
機能評価係数Ⅱ	—	0.0742	0.0750
クリニカルパス適用率 (%)	—	44.0	44.5
現金預金等残高 (現金預金+有価証券+貸付金) (百万円)	7,386	7,404	7,342
資金の不足額 (千円)	0	0	0
資金不足比率 (資金の不足額/医業収益×100) (%)	—	—	—
平均在院日数 (日)	11.5	11.0	10.8
紹介率 (%)	65.5	66.0	66.5
逆紹介率 (%)	70.0	70.0	70.0

※平成28年度から令和2年度までの数値は、平成29年3月に策定した第2次中期経営計画[改定版]の数値

平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
100.9	101.2	101.0	99.4	100.6
100.6	101.5	101.9	101.6	101.4
52.1	51.8	51.0	52.7	52.0
20.5	20.5	20.5	21.7	21.2
11.2	11.0	10.8	10.2	10.2
86.0	87.0	88.0	85.0	87.0
173,270	175,770	177,300	171,250	175,290
1,370	1,380	1,400	1,370	1,390
58,800	59,000	59,200	64,700	64,900
13,450	13,600	13,750	15,000	15,200
0.0760	0.0770	0.0780	0.1300	0.1310
45.0	45.5	46.0	47.3	48.0
7,588	7,983	8,388	7,303	7,447
0	0	0	0	0
—	—	—	—	—
10.6	10.4	10.2	10.9	10.8
67.0	67.5	68.0	82.0	82.7
70.0	70.0	70.0	102.0	102.0

## (2) 実績

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
経常収支比率 (経常収益/経常費用×100) (%)	103.3	104.4	105.8
医業収支比率 (医業収益/医業費用×100) (%)	102.6	102.2	105.7
職員給与費対医業収益比率 (給与費/医業収益×100) (%)	52.3	53.1	50.4
材料費対医業収益比率 (材料費/医業収益×100) (%)	20.3	21.3	21.1
委託費対医業収益比率 (委託料/医業収益×100) (%)	11.0	10.7	10.5
一般病床利用率 (%)	83.9	84.8	85.4
延入院患者数 (一般) (人)	170,680	172,119	171,967
1日当たり外来患者数 (人)	1,335	1,363	1,396
入院患者一人1日 当たり診療収入 (円)	57,016	58,165	59,778
外来患者一人1日 当たり診療収入 (円)	13,052	13,313	13,398
機能評価係数Ⅱ	0.0579	0.0742	0.0753
クリニカルパス適用率 (%)	42.9	43.4	42.2
現金預金等残高 (現金預金+有価証券+貸付金) (百万円)	7,420	7,756	8,060
資金の不足額 (千円)	0	0	0
資金不足比率 (資金の不足額/医業収益×100) (%)	—	—	—
平均在院日数 (日)	11.2	11.2	10.9
紹介率 (%)	66.2	77.0	81.3
逆紹介率 (%)	82.0	86.2	97.0

平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
105.5	104.9	98.6	108.0	105.0
105.3	105.1	95.4	97.2	95.2
49.9	50.8	56.7	55.3	55.2
21.2	21.7	23.6	24.0	23.4
10.4	10.1	11.1	10.6	10.8
87.0	88.7	74.1	76.0	79.1
175,334	179,243	149,214	153,187	159,296
1,415	1,432	1,210	1,297	1,320
61,244	62,010	65,939	68,896	69,754
13,911	14,624	16,099	16,759	16,669
0.1295	0.1340	0.1340	0.1288	0.1410
43.7	45.9	46.3	46.7	51.1
8,398	9,264	8,237	10,564	8,648
0	0	0	0	0
—	—	—	—	—
10.9	11.0	11.1	10.8	11.0
81.4	82.7	80.9	78.7	74.7
101.5	102.1	105.4	103.8	101.0

### 第3節 収支計画

#### (1) 計画

##### ア 収益的収支

		平成27年度	平成28年度	平成29年度
収 入	1. 医 業 収 益 a	13,748,978	14,648,259	15,394,142
	(1) 診 療 収 益	13,421,978	14,251,960	14,449,191
	入 院 収 益	9,378,458	9,923,854	10,035,719
	外 来 収 益	4,043,520	4,328,106	4,413,472
	(2) そ の 他 医 業 収 益	327,000	396,299	944,951
	2. 医 業 外 収 益 b	1,099,991	1,105,059	724,279
	(1) 一 般 会 計 補 助 金	787,498	784,044	404,541
	(2) 国 ( 県 ) 補 助 金	21,000	22,691	22,658
	(3) 長 期 前 受 金 戻 入	108,588	107,998	107,339
	(4) そ の 他 医 業 外 収 益	182,905	190,326	189,741
経 常 収 益 (a+b) (A)	14,848,969	15,753,318	16,118,421	
支 出	1. 医 業 費 用 c	13,798,933	14,486,499	15,093,467
	(1) 給 与 費	7,208,186	7,748,902	8,039,206
	給 料	2,957,000	2,968,870	3,028,248
	退 職 給 付 費	388,100	254,743	363,697
	そ の 他	3,863,086	4,525,289	4,647,261
	(2) 材 料 費	2,661,000	3,066,370	3,196,364
	う ち 薬 品 費	1,408,000	1,599,711	1,663,200
	(3) 経 費	2,651,330	2,473,703	2,719,135
	う ち 委 託 料	1,630,000	1,667,513	1,714,275
	(4) 減 価 償 却 費	1,200,366	1,103,937	1,055,411
	(5) そ の 他	78,051	93,587	83,351
	2. 医 業 外 費 用 d	890,827	814,901	799,421
	(1) 支 払 利 息	198,033	184,216	170,128
	(2) そ の 他	692,794	630,685	629,293
	経 常 費 用 (c+d) (B)	14,689,760	15,301,400	15,892,888
経 常 損 益 (A)-(B) (C)	159,209	451,918	225,533	
特 別 損 益	1. 特 別 利 益 (D)	0	0	0
	2. 特 別 損 失 (E)	0	0	0
	特 別 損 益 (D)-(E) (F)	0	0	0
純 損 益 (C)+(F)	159,209	451,918	225,533	
累 積 欠 損 金	7,235,479	6,134,025	5,908,492	

##### イ 資本的収支

		平成27年度	平成28年度	平成29年度
収 入	1. 企 業 債	0	0	0
	2. 一 般 会 計 出 資 金	187,290	190,744	194,266
	3. 国 ( 県 ) 補 助 金	0	2,676	0
	4. そ の 他	0	206,200	200,000
	収 入 計 (A)	187,290	399,620	394,266
支 出	1. 建 設 改 良 費	915,653	1,152,951	933,872
	2. 企 業 債 償 還 金	749,158	762,975	777,063
	3. 投 資	45,000	56,700	64,200
	支 出 計 (B)	1,709,811	1,972,626	1,775,135
差 引 不 足 額 (A)-(B)	△ 1,522,521	△ 1,573,006	△ 1,380,869	

※平成28年度から令和2年度までの収支は、平成29年3月に策定した第2次中期経営計画[改定版]の収支



(単位:千円)

平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
15,621,210	15,878,177	16,149,934	17,154,424	17,621,951
14,665,916	14,912,286	15,173,910	16,052,975	16,510,425
10,188,276	10,370,430	10,496,160	11,079,875	11,376,321
4,477,640	4,541,856	4,677,750	4,973,100	5,134,104
955,294	965,891	976,024	1,101,449	1,111,526
759,130	744,669	731,430	785,198	788,344
429,187	414,849	402,541	454,355	451,106
22,000	22,000	22,000	25,350	26,000
106,363	106,260	105,849	126,440	126,338
201,580	201,560	201,040	179,053	184,900
16,380,340	16,622,846	16,881,364	17,939,622	18,410,295
15,521,431	15,647,393	15,855,555	16,883,776	17,384,805
8,140,723	8,228,774	8,234,236	9,031,912	9,167,024
3,104,640	3,110,280	3,110,280	3,482,599	3,527,037
375,280	428,040	411,060	355,995	364,122
4,660,803	4,690,454	4,712,896	5,193,318	5,275,865
3,195,000	3,255,000	3,315,000	3,719,000	3,739,000
1,670,000	1,700,000	1,730,000	1,920,000	1,940,000
2,881,277	2,891,798	3,095,319	2,902,743	3,052,018
1,750,000	1,750,000	1,750,000	1,754,947	1,794,313
1,215,726	1,183,097	1,122,250	1,122,983	1,332,188
88,705	88,724	88,750	107,138	94,575
719,526	777,559	853,052	1,162,423	916,200
155,764	141,117	126,181	111,266	99,172
563,762	636,442	726,871	1,051,157	817,028
16,240,957	16,424,952	16,708,607	18,046,199	18,301,005
139,383	197,894	172,757	△ 106,577	109,290
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
139,383	197,894	172,757	△ 106,577	109,290
5,769,109	5,571,215	5,398,458	3,857,195	3,747,905

平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
0	0	0	1,759,200	329,000
197,857	201,519	205,252	211,688	276,002
0	0	0	0	0
200,000	200,000	200,000	0	0
397,857	401,519	405,252	1,970,888	605,002
576,605	525,281	502,890	3,813,247	1,198,502
791,427	806,074	821,010	846,749	977,890
57,022	60,615	61,800	43,200	45,300
1,425,054	1,391,970	1,385,700	4,703,196	2,221,692
△ 1,027,197	△ 990,451	△ 980,448	△ 2,732,308	△ 1,616,690

## (2) 実績

### ア 収益的収支

		平成27年度	平成28年度	平成29年度
収 入	1. 医 業 収 益 a	14,354,269	14,833,508	15,795,383
	(1) 診 療 収 益	13,964,712	14,421,832	14,843,037
	入 院 収 益	9,731,420	10,011,236	10,279,870
	外 来 収 益	4,233,292	4,410,596	4,563,167
	(2) そ の 他 医 業 収 益	389,557	411,676	952,346
	2. 医 業 外 収 益 b	1,131,611	1,129,380	793,280
	(1) 一 般 会 計 補 助 金	787,498	784,044	455,153
	(2) 国 ( 県 ) 補 助 金	25,951	22,955	22,673
	(3) 長 期 前 受 金 戻 入	108,660	108,761	106,893
	(4) そ の 他 医 業 外 収 益	209,502	213,620	208,561
経 常 収 益 (a+b) (A)	15,485,880	15,962,888	16,588,663	
支 出	1. 医 業 費 用 c	13,989,783	14,519,100	14,941,745
	(1) 給 与 費	7,501,383	7,874,525	7,962,002
	給 料	2,941,306	2,957,145	2,993,651
	退 職 給 付 費	347,655	386,274	253,703
	そ の 他	4,212,422	4,531,106	4,714,648
	(2) 材 料 費	2,910,333	3,153,739	3,333,769
	う ち 薬 品 費	1,566,688	1,636,063	1,699,233
	(3) 経 費	2,311,115	2,347,440	2,548,054
	う ち 委 託 料	1,582,819	1,585,668	1,652,175
	(4) 減 価 償 却 費	1,194,353	1,067,391	1,029,757
	(5) そ の 他	72,599	76,005	68,163
	2. 医 業 外 費 用 d	996,215	766,991	735,889
	(1) 支 払 利 息	198,033	184,216	170,128
	(2) そ の 他	798,182	582,775	565,761
	経 常 費 用 (c+d) (B)	14,985,998	15,286,091	15,677,634
経 常 損 益 (A)-(B) (C)	499,882	676,797	911,029	
特 別 損 益	1. 特 別 利 益 (D)	0	0	0
	2. 特 別 損 失 (E)	10	0	0
	特 別 損 益 (D)-(E) (F)	△ 10	0	0
純 損 益 (C)+(F)	499,872	676,797	911,029	
累 積 欠 損 金	6,585,944	5,909,147	4,998,118	

### イ 資本的収支

		平成27年度	平成28年度	平成29年度
収 入	1. 企 業 債	0	0	0
	2. 一 般 会 計 出 資 金	187,290	190,744	194,266
	3. 国 ( 県 ) 補 助 金	8,707	2,676	0
	4. そ の 他	9,800	207,400	206,067
	収 入 計 (A)	205,797	400,820	400,333
支 出	1. 建 設 改 良 費	821,239	1,088,962	778,391
	2. 企 業 債 償 還 金	749,158	762,975	777,062
	3. 投 資	55,200	54,900	48,600
	支 出 計 (B)	1,625,597	1,906,837	1,604,053
差 引 不 足 額 (A)-(B)	△ 1,419,800	△ 1,506,017	△ 1,203,720	

(単位:千円)

平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
16,512,540	17,250,213	15,631,231	16,883,647	17,632,757
15,539,783	16,189,692	14,649,629	15,824,407	16,459,567
10,738,136	11,123,009	9,914,947	10,562,626	11,113,555
4,801,647	5,066,683	4,734,682	5,261,781	5,346,012
972,757	1,060,521	981,602	1,059,240	1,173,190
805,795	788,645	1,369,290	3,115,567	2,822,594
471,988	464,096	483,187	492,433	498,424
22,837	25,487	587,740	2,264,590	1,853,918
106,340	106,237	106,310	125,563	133,238
204,630	192,825	192,053	232,981	337,014
17,318,335	18,038,858	17,000,521	19,999,214	20,455,351
15,683,737	16,412,048	16,378,075	17,373,975	18,520,238
8,234,951	8,762,507	8,866,157	9,332,823	9,740,533
3,090,258	3,239,093	3,449,338	3,583,268	3,669,041
157,210	316,494	264,853	331,658	374,105
4,987,483	5,206,920	5,151,966	5,417,897	5,697,387
3,503,795	3,739,736	3,685,484	4,057,900	4,125,289
1,812,423	1,963,040	1,928,900	2,213,975	2,130,957
2,714,563	2,711,156	2,717,350	2,839,352	3,342,999
1,724,419	1,735,806	1,738,255	1,797,957	1,903,199
1,145,086	1,110,095	1,050,232	1,068,996	1,235,846
85,342	88,554	58,852	74,904	75,571
724,145	787,209	866,623	1,150,640	969,168
155,764	141,117	126,181	111,116	101,946
568,381	646,092	740,442	1,039,524	867,222
16,407,882	17,199,257	17,244,698	18,524,615	19,489,406
910,453	839,601	△ 244,177	1,474,599	965,945
0	0	0	482	0
2,039	1	2,106	22	0
△ 2,039	△ 1	△ 2,106	460	0
908,414	839,600	△ 246,283	1,475,059	965,945
4,089,704	3,250,104	3,496,387	2,021,328	1,055,383

平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
0	0	82,300	1,694,300	508,000
197,857	201,519	205,253	209,061	252,037
0	1,042	116,971	49,823	2,676
210,500	210,633	209,597	11,533	0
408,357	413,194	614,121	1,964,717	762,713
492,189	463,158	942,626	3,597,126	1,085,743
791,427	806,074	821,010	836,240	929,959
43,200	42,900	38,400	36,000	30,600
1,326,816	1,312,132	1,802,036	4,469,366	2,046,302
△ 918,459	△ 898,938	△ 1,187,915	△ 2,504,649	△ 1,283,589

## 第4節 具体的取組の状況

### 取組方針1 地域で果たす医療機能の充実

#### 基本的取組1-1 救急医療の充実

##### 1 高度で専門的な医療提供体制の確保

###### (1) 脳卒中

医師の配置（脳神経内科医・脳神経外科医：9人）

- ・平日昼間：9人
- ・平日夜間、土曜日、日曜日、祝日：待機1人及び当直1人

###### (2) 心疾患

医師の配置（循環器内科医：8人）

- ・平日昼間：8人
- ・平日夜間、土曜日、日曜日、祝日：待機1人

##### 2 小児・周産期救急医療提供体制の確保

###### (1) 小児医療体制の充実

医師の配置（小児科医：9人）

- ・平日昼間：9人
- ・平日夜間、日曜日：待機1人
- ・土曜日、祝日：当直1人

###### (2) 産科医24時間体制の堅持

医師の配置（産婦人科医：8人）

- ・平日昼間：8人
- ・平日夜間、土曜日、日曜日、祝日：待機又は当直1人

##### 3 休日・平日夜間急病診療所との連携

救急患者や重症患者に対し迅速に対応するため、日常的に連絡体制を確保するとともに、大型連休（GW、お盆、年末年始）の医師等診療体制の確認を行っている。

##### 4 消防機関との連携

当院研修医と春日井市消防本部所属の救急職員による救急勉強会（2回）実施するとともに、当院の救命救急センター医師等が講師となり春日井市及び近隣消防機関の職員に対して講義（3回）を行った。また、救命救急センターで病院実習を行うなど、研修や実習を通じて救急救命士の知識向上を図り病院前救護活動の技術向上に寄与した。

【救急救命士実習受入状況】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
実習受入人数	61人	65人	63人	64人	61人
実習年間延日数	172日	200日	107日	169日	84日

※対象：春日井市消防本部及び小牧市消防本部

基本的取組 1－2 高度専門医療の提供

【重点取組】 心臓病センターの設置

第2診療棟の増築に伴う部署の移転と既存棟の改修によって生じたりハビリテーション室周辺のスペースを心臓病センターの設置場所として決定し、令和5年度予算に工事費と設計委託料を計上した。

【重点取組】 新棟の増築等・アレルギーセンターの設置・

ハイブリッド手術室及び手術支援ロボット対応手術室の設置

令和4年5月8日に竣工式典を行い、令和4年6月6日から診療を開始した。尾張地区初となる小児アレルギーセンター、手術台と血管撮影装置を組み合わせたハイブリッド手術室、内視鏡センターを備え、より安全で高度な医療の提供に資する施設となった。

竣工式典の様子



第2診療棟外観



【重点取組】 がん治療の充実

ゲノム医療については、がん遺伝子パネル検査の希望者を連携するがんゲノム医療中核拠点病院及びがんゲノム医療拠点病院へ紹介している。令和4年度の紹介件数は14件であった。

1 高度医療機器の計画的な更新・導入

超音波画像診断装置や白内障手術装置などの医療機器を更新し、安全・安心で高度な専門医療の提供に努めた。

## 基本的取組 1－3 地域完結型医療の推進

### 1 地域医療連携の推進

当院の医師と事務職員が地域の医療機関を訪問し、各診療科の強みや紹介してほしい疾患等をPRするとともに、要望や意見を聴取し対応するなど顔の見える関係のもと、信頼関係の向上に努めた。また、回復期病院を始めとした近隣医療機関や訪問看護ステーションなど医療・介護機関との連携推進のため、医療連携協議会、医療連携業務検討会、訪問看護懇話会、その他研修会等において情報共有及び意見交換を行った。

#### 【地域医療連携の状況】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
紹介受入患者数	32,862人	33,039人	28,512人	31,541人	32,688人
高度医療機器共同利用件数	4,431件	3,989件	3,088件	3,259件	3,090件

#### 【病診連携推進関連研修等の実施状況】

研 修 名	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
医療連携協議会	4回	4回	4回	4回
医療連携業務検討会	4回	4回	4回	2回
訪問看護懇話会	2回	0回	15回	24回
がんオープンカンファレンス	10回	5回	3回	7回
緩和ケア研修会	1回	0回	2回	2回
がん地域連携パスネットワーク会議	1回	1回	1回	1回

### 2 退院支援の充実

さくらカウンターに入院時支援看護師を配置し、入院前に治療経過や入院生活を説明することで入院治療の不安を軽減するとともに、退院困難な要因を抽出し、退院支援を必要とする患者の早期把握に努めている。

退院に向けて支援を要する患者には、各病棟に配置した専任の看護師または社会福祉士が退院支援職員として、在宅療養に関わる地域の医療・福祉・介護従事者や転院先の医療機関・施設との調整を行い、退院後に必要な医療やサービスが受けられるように支援をしている。

主治医や病棟看護師だけでなく、多職種が協力して入院前から退院まで切れ目のない支援を行っている。

### 3 地域連携パスの推進

胃がん、大腸がんを始めとしたがんに関する地域連携パスに関する取組を引き続き実施し、令和4年度は新たに144件運用を開始した。

さらに、心不全患者が退院後のセルフケアに取り組めるよう、日常生活の注意点や血圧等のチェックシートを掲載した「心不全ノート」を活用（平成30年10月作成）し、患者の治療経過や生活記録を、地域の医療機関や訪問看護師、福祉・介護サービス従事者と情報共有することで、役割分担のもと、地域全体で心不全患者を診る取組みを行っている。

また、他の医療機関へ紹介した患者について、当院の定期受診予定日が近づいたことを紹介先に対して知らせる「かすがいLiner」の運用を行っている。令和4年度末時点で1,595人の患者を通知対象として登録している。

これらの取組みにより、地域の医療機関との役割分担のもと、患者に必要な医療を途切れることなく提供する循環型医療を推進している。

#### 4 地域包括ケアシステムの構築支援

在宅療養への対応を強化するため、地域の医療・介護従事者の資質向上に寄与することを目的として、当院が備えている人的資源を活用した研修会を開催した。

感染症対策として主にオンラインにて開催し、また、参加しやすいように1つのテーマで小グループごとに複数回実施する方法とした。

##### 【研修会一覧】

研修名	対象	回数	参加人数
褥瘡勉強会	訪問看護師	1回	5名
がん看護研修会	看護師	8回	290名
春日井介護ハートスクール	看護師	1回	17名
パーキンソン病について学ぼう！	ケアマネジャー、訪問看護師等	2回	22事業所 119名
褥瘡予防・ケアについて学ぼう！	ケアマネジャー、訪問看護師等	3回	25事業所 148名
薬剤管理について地域みんなで考えよう！	ケアマネジャー、訪問看護師、薬剤師等	1回	11事業所 73名
高齢者の腎不全の治療と意思決定支援について学ぼう！	ケアマネジャー、訪問看護師等	1回	15事業所 72名
在宅訪問看護研修	訪問看護師	2回	20名
認知症ケア	訪問看護師	1回	18名
春日井地域連携糖尿病研修会	医師、看護師等	1回	27名
合計		21回	789名

## 5 健康づくり事業等との協働の推進

令和4年度は、3年振りに市民公開講座を現地開催で2回実施できたほか、2022健康救急フェスティバルに小児アレルギーをテーマとして参加した。

## 6 ICTを活用した介護・医療機関との連携の強化

地域において切れ目のない医療を提供することを目的として、Tri-netかすがいを運用している。

Tri-netかすがいは、当院の診療・検査予約が24時間365日オンラインで取得可能であるとともに、紹介患者が当院で受けた診療及び検査の記録を、紹介元及び紹介先の医師等がオンラインで確認することができる。

Tri-netを活用することで、透明性のある情報提供により信頼の向上に努めるとともに、地域において、患者に必要な医療を適切な医療機関が提供できることを目指し、医療機関への訪問の際などに導入の働きかけを行っており、令和4年度末時点で95の医療機関が導入している。

## 取組方針2 市民の立場に立った医療サービスの提供

### 基本的取組2-1 安全・安心な医療の提供

#### 【重点取組】 医療の質の向上

日本病院会が推奨する医療の質を評価する指標（Q I）を活用し、Q I参加病院間の数値の比較をするとともに、当院の各データを基に診療内容や医療安全などにつなげるための検証を実施し、改善が必要なものについては担当部署へ改善を促したりするなど、医療の質の向上に努めた。

#### 【重点取組】 感染症対策の徹底と検査体制の充実

感染予防対策として、病院職員への流行性ウイルス疾患抗体価検査を継続的に実施した。これにより、ウイルス疾患発症患者の看護にあたる際、抗体を有する職員を優先的に配置することで職員への感染を防いだほか、職員への新型コロナワクチン接種を実施した。

院内の検査体制として、委託職員も含めて濃厚接触者となった者には抗原定量検査を実施し感染拡大を防ぐなど徹底して対応した。

#### 【重点取組】 感染症流行下における継続した医療の提供

新型コロナウイルス感染症対応では、一般病棟の病室に陰圧装置を設置し、陰圧室として使用できるようにし、感染のフェーズに合わせて柔軟に看護師を配置転換することで、より多くの新型コロナ患者を受け入れられるよう体制を整えた。



## 2 医療安全意識の向上

全職員を対象に安全管理のための職場研修を年2回、感染対策のため、オンラインで開催した。職員の安全意識向上に努めるとともに、毎月第3週を安全強化週間と定め、全職員へ安全意識の啓発を行った。また、病棟等で発生した医療事故につながりかねない出来事（インシデント）を報告書としてまとめ、これらの事例を分析し、類似するインシデントの発生や医療事故・医療過誤の発生を未然に防ぐとともに、職員用デジタルサイネージや医局会などを通じ周知した。

## 3 医療相談の充実

患者・家族からの多様な相談に対する窓口を「さくらカウンター」とし、相談内容に適した担当者に振り分けている。看護相談外来では、摂食嚥下、糖尿病、皮膚排泄ケア、認知症の各分野の認定看護師が対応している。当院ホームページや1階玄関ホールに設置した案内ボードで周知し、多くの患者に利用されている。

## 4 チーム医療の推進

NST（栄養サポート）、緩和ケア、感染対策、EOL（人生の最終段階）ケア、糖尿病チームなど、多種職が早期から患者の入院支援が行えるようチーム医療を数多く展開し患者の診療やケアを行った。

## 5 接遇の向上

患者や来院者へのサービス向上を図るため、内部講師による接遇研修を実施した。

## 6 薬薬連携の推進

地域の薬局との研修会を適宜開催し、医薬品のリスク管理、抗がん剤のレジメン紹介などを行った。抗がん剤などのハイリスク薬は、服薬情報提供書を通じて薬局と連携することにより、副作用の早期発見・重症化予防につながった。

また、入院中の内服薬の変更について退院時に保険薬局に薬剤情報を提供したことにより、保険薬局薬剤師が継続的な薬学的管理ができるようになった。

## 7 ISO15189の認定取得

2回の審査を経て、令和4年12月に日本適合性認定協会の国際規格ISO15189を認定取得した。日本国内では296番目、愛知県内では20番目の認定となった。

### 取組方針3 健全な経営の確保

#### 基本的取組3-1 医療スタッフの確保・育成

##### 【重点取組】 研修体制の充実

研修医にとって当院での初期研修が更に充実したものとなるよう、研修環境や指導医による支援体制の拡充を図るため、研修医の院外講習会への参加を支援するとともに、研修指導医の育成や各所属が実施する院内研修の一元管理に努めた。

#### 1 医療スタッフの確保

医師・看護師等の医療スタッフの確保に努めた結果、後期研修のための専攻医や研修医から常勤医師として採用するなど職員数は、令和5年4月1日には958人となっている。

##### 【職員の状況】

(4月1日現在)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
医師	145人	146人	145人	145人	153人
薬剤師	38人	37人	39人	40人	43人
医療技師	120人	126人	135人	136人	137人
看護職員	565人	571人	590人	593人	582人
行政職員	45人	39人	41人	41人	42人
労務職員	3人	3人	2人	2人	1人
計	916人	922人	952人	957人	958人

※令和2年度以降は、会計年度任用職員制度の開始に伴い、研修医及び専攻医を除き、会計年度任用職員（旧嘱託職員）は除外して集計している。

##### 【研修医の状況】

(4月1日現在)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
研修医	23人	24人	24人	23人	25人
専攻医	13人	21人	20人	28人	31人

## 2 医療スタッフの質の向上

令和4年度に特定行為に係る研修を含むクリティカルケア認定看護師教育課程を1名が修了した。院内実習を経て令和5年度に認定試験を受験する予定である。

(4月1日現在)

### 【認定看護師一覧】(退職者を除く)

資格	人数
感染管理	2人
集中ケア	1人
皮膚・排泄ケア	3人
がん性疼痛看護	3人
緩和ケア	1人
摂食・嚥下障害看護	2人
がん化学療法看護	2人
認知症看護	2人
救急看護	1人
クリティカルケア	1人
手術看護	1人
訪問看護	1人
乳がん看護	1人
慢性呼吸器疾患看護	1人
がん放射線療法看護	1人
合計	23人

### 【専門看護師一覧】

資格	人数
がん看護	2人
感染症看護	1人
合計	3人

### 【特定行為に係る看護師一覧】

区分	人数
症状緩和	1人
創傷管理	1人
クリティカルケア	2人
合計	4人

### 【研究研修費の状況】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
研究研修費	69,416千円	57,321千円	37,918千円	45,437千円	52,979千円
うち旅費	20,035千円	17,243千円	975千円	2,733千円	10,025千円
うち研究雑費	23,971千円	14,932千円	9,865千円	16,589千円	14,197千円

## 3 勤務環境の改善

働きやすい職場づくりと生産性向上の実現、過重労働の解消を図ることを目的に、「時間外労働・休日労働に関する協定書」を令和5年3月31日に職員代表と締結した。

また、夕方・夜間の時間帯に看護師の病棟業務の負担軽減を図るため、前年度に引き続き看護補助者の派遣を受けた。

## 基本的取組 3-2 効率的な病院経営の推進

### 1 経営意識の向上

厚生労働省が定めた1日あたりの金額からなる包括評価部分（投薬、注射、処置、入院料等）と出来高評価部分（手術、麻酔、リハビリ、内視鏡検査等）を組み合わせて計算するDPCを採用しており、このDPCデータを用いて他院との比較を行い、結果を職員へ周知するとともに、毎月の経営状況や院長の訓示などを掲載した職員新聞を作成し経営意識の向上に努めた。

### 2 職員からの業務改善提案

中期経営計画や医療を取り巻く状況等を踏まえ、当院における業務上の改善点や要望を各所属長から聞き取るため、幹部会構成員によるヒアリングを実施した。

### 3 未収金対策

督促状の送付に加え、電話による督促や納付相談を実施した。過年度未収金は56,573千円に減少した。

#### 【未収金対策の状況】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
過年度未収金額(年度末時点)	65,517千円	60,805千円	58,534千円	56,960千円	56,573千円

#### 【不納欠損処分の状況】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
不納欠損処分数額	11,103千円	10,624千円	10,016千円	8,985千円	7,859千円

### 4 経費の削減

#### (1) 材料費及び器械備品購入費の削減

薬品や診療材料をより安価に購入することができるよう、薬品は年2回、診療材料は不定期に価格の値引き交渉を実施するとともに、一部の品目について、一定の数量を使用すると価格を引き下げる契約を結び、材料費を削減した。薬品の購入に際して、高額な抗がん剤をバイオ後続品に切替え、薬品費の削減につなげた。また、診療材料購入委員会及び医療機器物品購入審査委員会を適時開催し、診療材料の適正な在庫管理、器械備品の購入を行った。

なお、令和4年度の消耗品費が前年度に比べ増加しているのは、第2診療棟の整備や端末機器の更新に伴うものである。

#### ・診療材料購入委員会

委員構成：医師4人、技師2人、看護師5人の合計11人

開催回数：7回

・医療機器物品購入審査委員会

委員構成：医師6人、技師1人、看護師1人

事務局職員2人の合計10人

開催回数：5回

【材料費等の状況】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
診療材料費	1,688,073千円	1,770,488千円	1,750,177千円	1,838,561千円	1,990,394千円
対医業収益比率	10.2%	10.3%	11.2%	10.9%	11.3%
薬品費	1,812,423千円	1,963,040千円	1,928,899千円	2,213,975千円	2,130,957千円
対医業収益比率	11.0%	11.4%	12.3%	13.1%	12.1%
消耗品費	69,095千円	75,945千円	75,604千円	76,322千円	101,381千円
対医業収益比率	0.4%	0.4%	0.5%	0.5%	0.6%

(2) 後発医薬品の採用

先発医薬品と同じ効能効果が得られる後発医薬品を優先的に採用し、経費の削減に努めた。

【後発医薬品の状況】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
後発医薬品	351品目	361品目	386品目	423品目	406品目
後発医薬品数量シェア	89.8%	92.2%	94.8%	93.3%	92.1%

5 委託契約の見直し

医事業務や滅菌業務、病院情報システム運用業務などの委託について、毎月、委託業者との定例会を開催し、業務の実施状況を把握している。また、施設維持管理・防災業務や診療材料の管理及び物品搬送業務の委託などでは、日々の状況確認を行った。医療機器の保守点検業務委託では、対象機器の見直しを行い、経費削減に努めた。

【委託料の状況】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
委託料	1,724,419千円	1,735,806千円	1,738,255千円	1,797,957千円	1,903,199千円
対医業収益比率	10.4%	10.1%	11.1%	10.6%	10.8%

## 6 病院広報の充実

広報春日井に当院の医療への取組み等に関する記事を掲載するとともに、当院の診療内容や取組等を掲載した地域住民向けの病院新聞「さくら」や、地域の医療機関向けの病院情報誌「Trinity（トリニティ）」を各年3回発行した。

令和4年6月に開設した第2診療棟については、リーフレットを作成して市役所等に設置したほか、名古屋・尾張地域を中心に発行される地域医療情報誌に当院の10ページ特集記事を掲載し、PRに務めた。

また、11月30日の人生会議の日に合わせて、映画のモデルになった著名な写真家を招き、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）啓発イベントを開催した。

## 7 ICT等を活用した業務の効率化

電子カルテの更新に合わせて6月下旬から導入したスマートフォンアプリ「コンシェルジュ」により、あらかじめクレジットカードを登録することで会計に並ぶことなく帰宅できる医療費後払いや診療の呼出し機能などが利用できるようになった。

# スマートフォンアプリ **コンシェルジュ**

## 4つの機能で春日井市民病院の通院をより便利に！

通信環境をご確認のうえ、ご利用ください。

### ①らくらく会計

※ あらかじめ、アプリにクレジットカードの登録が必要です。  
※ 救急外来の受診など、一部利用できない場合があります。

お支払いはいつもの  
クレジットカードで！



医療費の「後払い」を  
選択できます

診療を終えたあとは  
スムーズに帰宅！



会計に並ぶことなく  
帰宅できます

お支払い履歴は  
スマートフォンで確認！



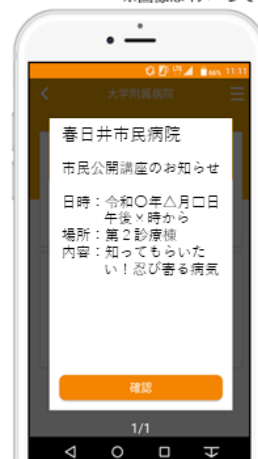
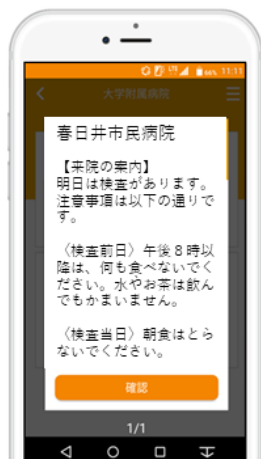
スマートフォンでお支払  
い履歴を確認できます

### ②前日にお知らせ

### ③診療のお呼び出し

### ④メッセージの受信 予約の確認

※画像はイメージです



## 第5節 令和4年度各所属の主な取組項目の実施状況

分類	事業名	取組概要
1 地域で果たす医療機能の充実	(1) 救急医療の充実 消化器緊急内視鏡治療における医師補助業務参入	消化管出血の緊急止血術など、医師からの依頼に即応して助手業務に入る。154時間10分の医師の作業負担軽減につながった。 予定外内視鏡治療補助件数 ・令和2年度：5件（15時間25分） ・令和3年度：26件（58時間54分） ・令和4年度：77件（154時間10分）
	(2) 高度専門医療の提供 心臓病センターの設置（継続事業）	管理課施設担当を中心に図面整備、物品確保に努めている。 ・医事業務委託において、心臓病センター内に2名のスタッフを確保する。 ・外来枠の設定（リハビリ枠との兼合いを調整する）
	管理栄養士の適正人数配置	担当医師と相談の上、小児アレルギーセンターに入院・外来食物経口負荷試験の対応担当者を配置した。 小児食物アレルギー栄養食事指導件数は次のとおり。 令和4年度 実施件数 1,785件 算定件数 1,458件（およそ300,000点） 令和3年度 実施件数 1,193件 算定件数 976件 算定件数 前年度比 149% 9歳以上で同月2回目（非算定）は、実施件数の約18%となった。
2 市民の立場に立った医療サービスの提供	(1) 安全・安心な医療の提供 新規採用職員への流行性ウイルス疾患抗体価検査の実施およびワクチン接種の推奨	令和4年度は123名に実施した。結果は、健診結果とともに本人に通知した。ウイルス疾患発症患者のケアにあたる職員に、抗体を有する職員を優先的に配することで、職員への感染伝播リスクを低減させている。 また、抗体価が不十分な職員が発症患者に適切な防護具なしで対応した際、速やかにワクチン接種などの予防措置をとることができる。 これらの効果により、年度中に、当該ウイルス疾患患者からの院内伝播はなかった。今後も、抗体の有無の把握は継続していく必要がある。
	安全な患者搬送のための設備	各病棟に車椅子・点滴台固定アタットメントを2、3台設置した。持続点滴中の患者搬送時に使用している。持続点滴中の患者が車椅子で検査や手術、リハビリなどの目的で病棟から出る際、患者移送は看護師又は看護補助者が行う。車椅子・点滴台固定アタットメントを使用することで、患者に点滴台を持たせたり、看護師又は看護補助者が片手で点滴台を持ち片手で車いすを搬送することなく、安全で円滑に患者搬送が行えている。体の大きい患者を搬送する場合は点滴台を固定することで、車いすを両手で押せるため安全に搬送ができています。
	病棟薬剤師による処方監査	当初、医師が処方後に病棟薬剤師が確認して受付することを検討していたが、医師のタスクシフトもあり、西6階病棟における泌尿器科及び眼科入院患者に限り初回から持参薬処方の発行支援を開始した。 今回の取組みで、泌尿器科医師の処方発行時間が夜間から日中にシフトし、それにより薬剤科での調剤、看護師による指示受けや配薬車へのセットが業務時間内にできるようになった。 また、処方切れの確認など看護業務の軽減にもつながり、最終的には必要な薬が途切れなく患者に届けられた。

分類	事業名	取組概要
2 市民の立場に立った医療サービスの提供	外来抗癌剤通院治療患者のサポート体制の拡充（連携充実加算150点の算定）	保険薬局との連携に関わる連携充実加算については、4月から少しずつ増加し令和4年度の合計は720件に達した。がん患者の情報連携を行ったことで、保険薬局からの報告（トレーシングレポート）は増加し、年間259件（うちがん関連77件）となっており、治療後や治療中の経過報告が届いている。このような報告を主治医に届けることにより、安全な抗癌剤治療が進むと考える。令和4年度の抗癌剤調製時の重量監査システムを導入したため、今後はより安全な治療が可能となった。
	(1)安全・安心な医療の提供 病院機能を維持し、効率的な病院経営を推進していくための人材育成	認定看護管理者教育課程について、ファーストレベルで5名修了、セカンドレベルで2名修了、サードレベルで1名修了した。サードレベル修了者1名に関しては令和5年に認定試験を受験する。 なお、令和3年度にサードレベルを受講した職員1名は、令和4年度の認定試験を受験できず、令和5年度に受験する予定である。（令和5年度には、2名が認定看護管理者を目指す。）病院を取り巻く状況の変化に合わせ、迅速に柔軟に対応していくことは、看護管理者のありように左右される。今後も育成に力を入れていく。 また、クリティカルケア認定看護師教育課程（特定行為研修を含む）を1名が修了し、現在特定行為研修の院内研修に取り組んでいる。令和5年度認定試験を受験する予定である。
	内視鏡センター透視室（第3内視鏡室）のシステム、診療材料の管理	消化器内科医師と調整を重ね、既存棟の透視室で行う大腸内視鏡検査と、第2診療棟の内視鏡センターで行う大腸内視鏡検査の効率的な分類を行い、第2診療棟開設に合わせオーダーリングを構築した。 内視鏡センター全体と、センター内の透視室で使用する診療材料に、余剰在庫が出ないように管理を徹底した。 大腸内視鏡検査を行う患者が、既存棟の透視室で行うのか、第2診療棟の内視鏡センターで行うのか、スタッフがしっかり把握し、患者が戸惑わないように運用できている。
	さくらカウンターでの薬剤師業務拡充	春日井市薬剤師会と協議し、春日井市内の保険薬局に中止薬を伝え、必要に応じて1包化された薬を抜いたり、該当薬の説明（どれなのか）をしたりする取組みを開始した。これまでも患者の理解度が低く、間違った薬を中止して手術が延期になった事例があったが、保険薬局が介入することにより、より確実に内服中止を行うことができたと考える。今後も保険薬局と連携し、推進したい。
(2)災害時医療の充実	災害医療の充実	令和4年度から災害対策委員会を、災害対策ワーキンググループ、DMATワーキンググループに再編成した。会議もワーキンググループを中心に毎月行い、11月には実働参加型の災害訓練を行った。そのフィードバックを反映して、今後の訓練の在り方、アクションカードの見直し、災害対策マニュアル策定など、今後に向けての取組みを積極的に行っている。
3 健全な経営の確保	内視鏡センター看護師増員の希望、新たな師長・主査ポストの提案	看護局により令和4年4月から救急部に内視鏡センター・放射線透視部門の専属看護師長が配置された。業務に関する医師と看護師間の意思疎通、看護師間における伝達が看護師長を中心にして確実に行われるようになった。また、現場での問題点の報告なども看護師長から内視鏡センター部長へ一括して受けられるようになった。看護師長とともに内視鏡センターのより良い運営に努める。
	(1)医療スタッフの確保・育成 輸血コアナースの設置	令和4年4月から16名の輸血コアナースを選出し、偶数月の第1金曜日午後4時から5時まで対面で開催し出席率は97.5%であった。 活動実績は次のとおり。 (1)血液型と抗体スクリーニング同時採血禁止の徹底を講義やデジタルサイネージを利用し周知した。 (2)確実な輸血方法（輸血セットの使い方等）の確認のため、外観確認リーフレットの作成、適正な輸血速度の周知、帰室後輸血観察表の作成、製剤搬送用バッグの採用等を実施した。 (3)輸血関連インシデント報告と検討を行った。 ・製剤落下破損事例を共有し各部署への注意喚起 ・血液型、抗体スクリーニングの同時採血事例を報告し依頼画面を修正 これらの活動により看護師の輸血に関する知識の向上が図られ、安全かつ迅速な輸血療法につながる効果が得られた。看護局と連携し、令和5年度も継続して活動する。
	(継続) 抗癌剤曝露についての取り組みー職場環境モニタリングー	令和4年度「職場環境モニタリングー抗癌剤曝露調査ー」を2回施行。 第1回、第2回ともシクロフォスファミド(CPA)、5FU、ゲムシタピン(GEM)の3剤について、11、12か所で調査した。結果と対策については「化学療法センター運営委員会」で報告した。 化学療法センターでは、患者トイレ床、治療用チェアアームレストから毎回抗癌剤が検出されたため、水からオゾン水へ見直し、清掃を継続。 薬剤部では、アイソレーター周囲床、パスボックス内、アイソレーター前面アクリル板、アイソレータースリーブ、調剤室壁、薬品管理室床、抗癌剤調製用バスケットを調査。調製区域（アイソレーター内）からは微量の抗癌剤が検出されたが、調製区域外（薬品管理室）では検出がなく、現状の清掃方法を継続。 今後も定期的に曝露状況を評価することで、その対策の効果と問題点をチームで共有して取り組んでいる。



分類	事業名	取組概要
3 健全な経営の確保	(2) 効率的な病院経営の推進  医療経営部会の発足	<p>令和3年からワーキンググループとして活動し、令和4年度から院内向上推進委員会として様々な提案をして改善につなげた。</p> <p>主な成果として、</p> <p>(1)緩和ケアチームの回診について：医師が診療できる体制づくりに取り組んだ。</p> <p>(2)悪性腫瘍特異物質治療管理料について：病院単位での算定をする。</p> <p>(3)PHS電話番号登録について：親機をつくり各職員のPHSに電話帳をコピーする。</p> <p>(4)肺血栓塞栓症予防対策実施率（QI）について：テンプレート変更により89.5%から97.6%へ増加した。</p> <p>特に(1)については、血液内科の医師の協力（週3日で1時間ずつ）を得て、メディカルスタッフのみの回診が減り、患者が安心できる環境を提供することができた。また、算定件数も令和3年6月から9月までの4か月間で計78件であったが、令和4年6月から9月までの同じ期間で比較すると、計231件と約3倍となった。</p>
	院内内視鏡ファイバー管理参入	<p>令和4年度導入されたシステムの機能を活用し、マスター管理、洗浄管理、稼働状況管理を容易に行うことができ、令和5年度メーカー保守契約を適切な内容で更新した。引き続きファイバー稼働状況、保守契約更新状況などを定期的に消化器カンファレンスで情報提供し、適性使用と適正保有につき検討する。</p>
	地域医療情報誌への掲載	<p>出産前から切れ目のない安全な医療、誰もが安心して暮らせる医療のまちをコンセプトに「地域医療連携の強化」、「がん治療」、「脳卒中と循環器病の克服5カ年計画」、「医療の力で支える肥満症」、「いつまでも元気で歩ける体のための予防と治療」、「大人と子どものスキンケア」、「女性の一生に寄り添う」をタイトルとし、各担当医師に取材を受けてもらい掲載された。令和4年12月に尾東地区を中心に3万部発行された。</p>

## 第6節 中期経営計画体系別実施結果一覧

取組方針	基本的取組	具体的取組	令和2年度の実施結果	令和3年度の実施結果	令和4年度の実施結果
1 地域で果たす医療機能の充実	(1) 救急医療の充実	01 高度で専門的な医療提供体制の確保	○	○	○
		02 小児・周産期救急医療提供体制の確保	○	○	○
		03 休日・平日夜間急病診療所との連携	○	○	○
		04 救急医療の適正受診の啓発	○	○	○
		05 消防機関との連携	○	○	○
		【実施済の取組】救命救急センターの設置	—	—	—
	(2) 高度専門医療の提供	【重点取組】緩和ケア病床の設置	—	—	—
		【重点取組】心臓病センターの設置	△	△	△
		【重点取組】ハイブリッド手術室及び手術支援ロボット対応手術室の設置	—	○	◎
		【重点取組】アレルギーセンターの設置	—	○	◎
		【重点取組】新棟の増築等	—	○	◎
		【重点取組】がん治療の充実	—	○	○
		01 脳卒中センターの強化	—	—	—
		02 高度医療機器の計画的な更新・導入	◎	◎	◎
		【実施済の取組】放射線治療の充実	—	—	—
		【実施済の取組】脳卒中センターの強化	—	—	—
		【実施済の取組】高度医療機器の計画的な更新・導入	—	—	—
	(3) 地域完結型医療の推進	01 地域医療連携の推進	○	○	○
		02 退院支援の充実	○	○	○
		03 地域連携パスの推進	○	○	○
		04 地域包括ケアシステムの構築支援	○	○	○
		05 健康づくり事業等との協働の推進	○	○	○
		06 ICTを活用した介護・医療機関との連携の強化	○	○	○
		07 病床機能の検討	△	△	○
		【実施済の取組】ICTを活用した介護・医療機関との連携の強化	—	—	—

小児アレルギーセンター



ハイブリッド手術室



取組方針	基本的取組	具体的取組	令和2年度 の実施結果	令和3年度 の実施結果	令和4年度 の実施結果
2 市民の 立場に 立った 医療サ ービス の提供	(1)安全・安心な医療の提供	【重点取組】医療の質の向上	○	○	○
		【重点取組】感染症対策の徹底と検査体制の充実	—	○	○
		【重点取組】感染症流行下における継続した医療の提供	—	○	○
		02 医療安全意識の向上	○	○	○
		03 医療相談の充実	○	○	○
		04 チーム医療の推進	○	○	○
		05 接遇の向上	○	○	○
		06 薬薬連携の推進	○	○	○
		07 病院機能評価の受審	—	◎	—
	08 ISO15189の認証取得	—	△	◎	
	(2)災害時医療の充実	01 災害拠点病院の機能の拡充	○	○	○
		02 災害派遣医療チーム（DMAT）の機能の向上	○	○	○
		03 災害時にかかる計画などの見直し	○	○	○
		【実施済の取組】02 災害派遣医療チーム（DMAT）の拡充	—	—	—
3 健全な 経営の 確保	(1)医療スタッフの確保・育成	【重点取組】研修体制の充実	○	○	○
		01 医療スタッフの確保	○	○	○
		02 医療スタッフの質の向上	○	○	○
		03 勤務環境の改善	○	○	○
		【実施済の取組】研修体制の充実	—	—	—
		【実施済の取組】勤務環境の改善	—	—	—
	(2)効率的な病院経営の推進	01 経営意識の向上	○	○	○
		02 職員からの業務改善提案	○	○	○
		03 未収金対策	○	○	○
		04 経費の削減	○	○	○
		05 委託契約の見直し	○	○	○
		06 病院広報の充実	○	○	○
		07 ICT等を活用した業務の効率化	—	○	○
		【実施済の取組】病院広報の充実	—	—	—

〔実施結果〕 ◎：実施済 ○：実施 △：実施に向けて検討・継続中